

自ら学び自ら考える子供の育成

～複式学級における個別最適な学びと協働的な学び～



令和5年11月29日(水)

奄美市立宇宿小学校

※ 研究内容やリーフレット等は、本校 Web ページにも掲載しています。閲覧・ご活用ください。



I これまでの研究から

【令和3年度】

複式学級のよさを生かした学習指導

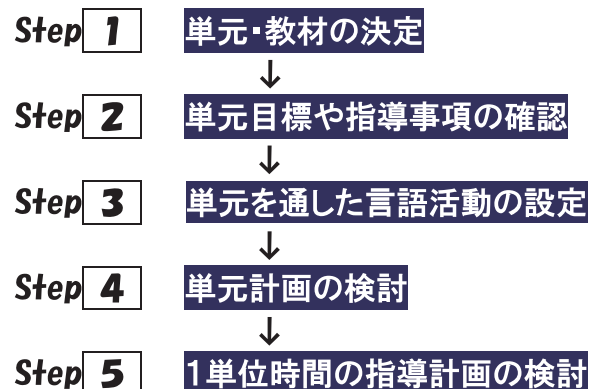
- あ 子供の主体的な学習を促す指導
- い 同学年の子供同士が協力したり、学び合ったりする学習を促す指導
- う 異学年の子供同士が協力したり、学び合ったりする学習を促す指導
- え 教師が積極的に個別対応をする指導

「学びに向かう力」を涵養するための四つの視点

必要性	学習に動機を与え、必然をもたせる視点
自律性	学習内容・方法を自分の意思で決められる視点
関係性	知識及び技能同士を結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする視点
有用性	学習に意味を見だし、自分の資質・能力に自信がもてる視点

【令和4年度】

複式学級における国語科授業の組立て方



複式学級における

1 複式学級のよさを生かした学習指導

令和4年度までの研究をもとに、本校では個別最適な学びと協働的な学びを以下のように捉えました。

あ	子供の主体的な学習を促す指導	➔	個別最適な学び
い	同学年の子供同士が協力したり、学び合ったりする学習を促す指導		協働的な学び
う	異学年の子供同士が協力したり、学び合ったりする学習を促す指導		協働的な学び
え	教師が積極的に個別対応をする指導		個別最適な学び

2 複式学級のよさ

- 友達のことを知っている。
- 異学年が一つの教室で学ぶ。
- 自分たちで学びを広げたり深めたりする機会が多い。
- どの子も主役になれる。

3 複式学級における本校での授業設計

- 同時導入・同時終末による「ずらし」なしの学習過程
- 両学年共通の課題設定
- 授業の組立て方のパターン化

4 子供たちが授業で思うこと

うまくいっていること

(R4.12の実態調査より)

自分たちの考えで進めてみて、まとめまでいけたら気持ちがいい。

自分たちで進めると楽しいし、みんなで協力できる。

先生がいない中、みんなでどんどん進めるのが好き。

先生がいなくてもスムーズに進められるようになりたい。

ノートを書くときに早い人と遅い人がいる。

友達と協力するのは楽しいけど、活動のペースが違う。

ガイドで進め方が分からなくなる時がある。

ボードに答えや考えを書くのが難しい。

みんなで迷ってなかなか決められない時がある。

困っていること

上記 1 2 3 4 のことから、以下の「個別最適な学びと協働的な学び」を副主題として研究に取り組みました。

個別最適な学び

キーワード： 自分で選ぶ, 自分で決める

ガイドを中心に子供たちが主体的に授業を進め、教師は一人一人の興味関心に応じた学習活動の機会を提供し、子供たちに選択・決定させながら必要に応じて適切に個別指導を行う。

- ア 子供主体で組立てる学習計画
- イ 習得した学びを活用する单元内自由進度学習
- ウ 柔軟かつ臨機応変に支援に入る個別指導
- エ 資料や方法を選択・決定できる場の設定
- オ 個に応じた資料や掲示物の提示
- カ 目的に応じたICTの効果的な活用

一体的に充実

協働的な学び

キーワード： 協力する, 学び合う

同学年・異学年の子供同士が協力したり、学び合ったりすることで学びを深める。
(同学年：考えの可視化・分類, 共通点を見付ける話合い)
(異学年：共通の課題設定, 振り返りの場での交流)

- ア わくわく感のある異学年協働の言語活動
- イ 自分の考えを広げたり深めたりする話合い
- ウ 異学年合同の振り返り
- エ 多様な他者と協働する活動

協働的な学び

ア【わくわく感のある異学年協働の言語活動】

異学年協働で取り組むわくわく感のある言語活動を設定した。こうすることで、異学年の子供たちが系統性や関連性を意識しながら協力して問題解決を図ることができた。

【異学年協働の言語活動例】 5・6年「SDGs×宇宿小を目指して、校長先生へ提案書を提出する」

「そえる」を目指して過ごしやすい宇宿小へ

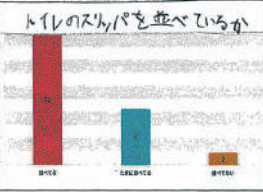
5年 報告書

テーマを選んだ理由
5年 6年

スリッパがそろっていないと往み続けられるまちづくりを続けていくことができない。トイレをする時にはスリッパがそろっていないことが多くスリッパを並べてまたくちくちになってしまう。なんとか自分たちの力で改善する方法はないかと思いこのテーマを選んだ。

2 調べ方
まずどうしてスリッパを並べずに教室にとどまらなければならないのかについて、1～6年の34名にアンケートを取った。次に毎時間トイレのスリッパが並べてあるか見に行くことにした。

3 調べて分かったこと
(1)トイレのスリッパを並べない理由
1～6年の34名からアンケートを取って分かったことは、勝手に足垂と話を夢中になってしまう「しむがむのめんどくさい」ということだ。1～6年にとどまらざるトイレに行くときスリッパを並べるのは、少しめんどくさいことが分かった。ほくがふだんトイレを使っている中でとくに3時間目が並んでいないことが、たです。アンケートの結果では、並べてる人が多いけど見に来たときは、たいたい並んでいないのてただ並べていると思っただけで本当は、並べてないと思った。



6年 提案書

以上のことから、私たちは次の2点について提案する。

4 提案

(1)意識して、自分から取り組む
みんなが気持ちよく、快適に過ごせるように、自分から意識して取り組むことを提案する。思っていてトイレのスリッパがそろっていない時、みんながそろえるからいいよね、と言ってそろえていないと考える。また、自分からそろえようと意識して取り組むことで、それが当たり前ようになってくると思う。

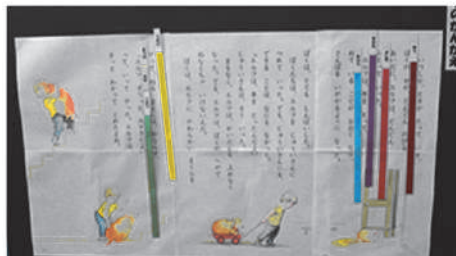
(2)トイレのスリッパにあった足跡マークを置く
トイレのスリッパをそろえるために、トイレのスリッパにあった足跡マークを置くことを提案する。その足跡マークには、人間の行動心理を利用して、相対気付けられないうちに選択を誘導する効果がある。みんながよく使う1階と2階のトイレに足跡マークを置くことで、「往み続けられるまちづくり」のSDGsにつながり、足跡マークは、お金にもあまり買たんがかからないと考える。

5 認め

トイレは、みんながたくさん使う所である。だから、トイレのスリッパをそろえるとみんなが気持ちよく、快適に過ごすことができ、SDGsの往み続けられるまちづくりにもつながることになる。宇宿小みんなが「そえる」を目指して過ごしやすい宇宿へはいこうではありませんか。

イ【自分の考えを広げたり深めたりする話し合い】

話し合いでは個々の考えを可視化し、共通点を見付けさせたり、同じ考え同士で類型化させたりした。その結果、子供たちは自分の考えを広げたり深めたりすることができた。



【1・2年国語 読み取り場面における可視化の様子】

ウ【異学年合同の振り返り】

複式学級のよさを生かし、異学年合同の振り返りの場を設定した。このことで、上の学年の子供は下の学年の内容と関連付けたり、下の学年の子供は今後の学習の見通しをもつことができた。した。



【3・4年国語 振り返りの様子】

エ【多様な他者と協働する活動】

学習の内容に応じて、校内の職員にインタビューする活動を加えた。このことで課題解決につながるような情報や専門的な知識など、子供たちが個々に予想していたものとは異なる考え方を組み合わせることになり、より考えを深めることにつながった。



【3・4年国語 校長先生のみみつを発表している様子】

個別最適な学び

ア【子供主体で組み立てる学習計画】

モデル文を示すことで、この単元でどんな力を身に付けるのかを子供たちに意識させた。そうすることで子供たちは、教材文でどんなことをどのような順番で学習すればよいか、考えを出し合うことができた。また、似たものをまとめたり並び替えたりして子供たちの意見を中心に学習計画を立てていくようにした。



【5・6年国語 学習計画を立てている様子】

イ【習得した学びを活用する単元内自由進捗学習】

単元の「活用」段階においては、単元のゴール（発表会など）の時間を設定した。その結果、子供たちは習得した学びを活用して、単元のゴールを目指すことができた。そこへ至る学習については、子供の学習進度や追究の方法を子供が自由に選択・決定できるようにした。



【5・6年国語 学習方法を選択している場面】

ウ【柔軟かつ臨機応変に支援に入る個別指導】

教師が状況に応じて支援に入ることができるよう「ずらし」なしの学習過程で授業を行った。その結果、個に応じた指導がより柔軟にできるようになった。一人一人の学びの状況を把握し、子供たちの必要に応じた個別指導をすることで、付きたい力を確実に付けられるようにしている。



【1・2年国語 1年生ガイド学習を教師が見守る様子】

エ【資料や方法を選択・決定できる場の設定】

課題解決に適した資料を個々で選択・決定できるように、種類の違うワークシートを準備した。自分に適した内容、量のワークシートを選択できるようにしたことで、主体的に学習に向かう姿が見られた。



【3・4年国語 文量に合うワークシートを選択している場面】

オ【個に応じた資料や掲示物の提示】

解決方法が分からない子供には解決のポイントとなる言葉を振り返らせたり、本時で使えるような見方・考え方の手掛かりをもたせるワークシートを準備したりした。その結果、子供たちは自分で解決に向けたイメージをもって学習することができた。



【3・4年国語 音声を文章にした掲示物から考えさせる様子】

カ【目的に応じたICTの効果的な活用】

教師が音声データを学習支援アプリに取り込み、つまずきのある子供がポイントとなる部分を繰り返し聞くことができるようにしたり、活用部分での発表の方法に学習支援アプリなどを取り入れたりした。その結果、子供たちはより明確に自分の課題を確認したり、時間を有効に使用したりし、課題解決につながった。



【1・2年国語 自分で確認できるように録画をする様子】

個別最適な学び

3 研究の実際

3・4年「聞き取り名人になって先生たちのひみつを友だちに知らせよう」 3時間目/6時間

協働的な学び

ア 本単元の導入では、必要な情報を選択して質問したり、多くの情報をもらさず記録したりする活動を取り入れ、質問の仕方やメモの取り方を学ぶ必要感をもたせ、学習計画を立てさせました。

イ 本時で習得した質問の仕方などを生かして、この後の「活用」段階で単元内自由進度学習に取り組みました。

ウ 本時で教師は質問の内容の表記の仕方に悩んでいる3年生の子供に個別指導を行いました。



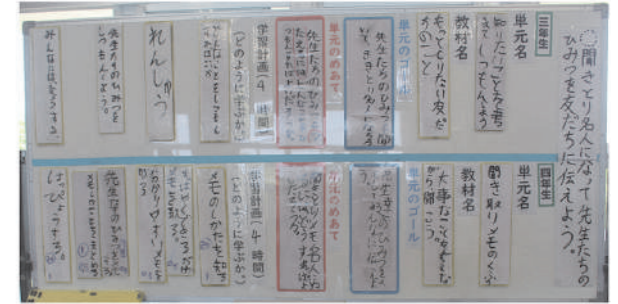
エ 本時では子供たちは予想をもとに教科書の動画を自分で見たり、教師が準備した動画の言葉が印刷されたワークシートに線を引いたりしました。どんな質問をすればよいかを自分の選んだ方法で考えました。

オ 本時では、メモの文字の丁寧さにこだわっていた4年生の子供に、例を示しながら文字の丁寧さがどの程度必要かを考えさせました。

カ 本単元では特に自力解決や考えを共有する場面、振り返りでICTを活用しました。

主な学習活動（第3学年）	過程	位置/時間	過程	主な学習活動（第4学年）
1 両学年共通のめあてや単元のめあて、単元のゴールを確認する。 2 学習課題を確認する。 質問の仕方を考える。 3 気付いたことを話し合う。 どの質問の仕方をすればいいのかな。今日は質問の仕方をマスターしたいな。 4 本時のめあてを立てる。 話を聞いてどんな質問をすればよいだろうか。 5 見通しをもつ。 <答えの予想> 理由を質問すればいいんじゃないかな。詳しく聞きたいことを質問するのもいいね。 <解決の方法> 教科書の動画を見てみようかな。実際に質問し合ってみたらどうかな。 6 自力解決をする。 ・自力解決の方法を選択し、一人で考える。(ワークシート・ノート・タブレット) 7 友達と考えを共有する。 ・自分の意見を発表したり、友達のよさを見付けアドバイスをし合ったりしながら、質問する際のポイントを見付ける。(学習支援アプリの共有ノート、黒板、ホワイトボード) 8 自分や友達の考えから共通点を見付け、まとめをする。 「いつ・どこで・だれが・何を」を質問するとよい。分からなかったことを質問するとよい。 9 質問の仕方のポイントを確認する。 10 振り返り・交流をする。 ・学習支援アプリを使って、全体で振り返りを共有する。	つかむ・見通す	⑦	つかむ・見通す	1 両学年共通のめあてや単元のめあて、単元のゴールを確認する。 2 学習課題を確認する。 メモの仕方を考える。 3 気付いたことを話し合う。 メモしたことはあるけど、どんなことに気を付けてメモしたらいいか考えたことないな。 4 本時のめあてを立てる。 話を聞いてどのようにメモを取ればよいだろうか。 5 見通しをもつ。 <答えの予想> 短い言葉でメモをするといいかも。箇条書きならメモしやすいかも。 <解決の方法> ワークシートでメモのポイントを考えたいな。友達のリポートを探ってみようかな。 6 自力解決をする。 ・自力解決の方法を選択し、一人で考える。(ワークシート・ノート・タブレット) 7 友達と考えを共有する。 ・自分の意見を発表したり、友達のよさを見付けアドバイスをし合ったりしながら、メモを取る際のポイントを見つける。(学習支援アプリの共有ノート、黒板、ホワイトボード) 8 自分や友達の考えから共通点を見付け出し、まとめをする。 短い言葉や箇条書きでメモを取るとよい。自分なりの記号や線を使って見やすいメモにするとよい。 9 メモの仕方のポイントを確認する。 10 振り返り・交流をする。 ・学習支援アプリを使って、全体で振り返りを共有する。
		②③		
	調べる・練り上げる	②③	調べる・練り上げる	
	生かす・まとめる	①⑤	生かす・まとめる	

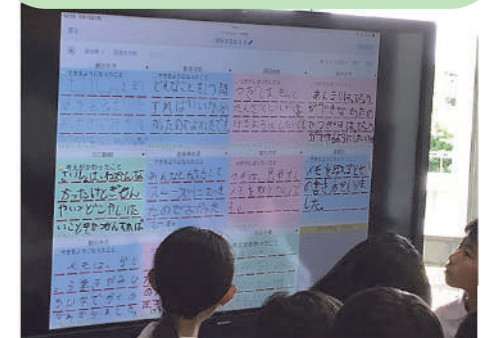
ア この単元では「聞き取り名人になって先生のひみつを友だちに知らせよう」を異学年協働の言語活動に設定しました。目的を明確にするため、単元のめあてとゴールを毎時間合同で確認しました。



イ 本時で3年生は、自分が書いた質問を黒板に貼って考えを共有しました。子供同士で考えを類型化したり、共通点を見付けたりしながら、さらに考えを広げたり、深めたりしていきました。



ウ 本時では、異学年合同での振り返りを通して、自分の考えの変容を捉えさせました。異学年合同で行うことで、次時への学習の見通しを一緒にもつことができ、単元内自由進度学習へとつながっていきました。



エ この単元では、3・4年生がペアになり、校内の先生に3年生が質問をし、4年生がメモをとる活動を行いました。最後には、自分たちが知ったことを「先生のひみつ」として学級で報告会を行いました。



4 研究のまとめ

(1) 実態から

○ 子供の実態 (R5.10の実態調査より)

個別最適な学び

◇ 自分で進める学習について

- 分かったら気持ちいいから、自分で考える時間が好き。
- 考えを友達に分かるように書くことが好き。
- 引っかかっているところを教えてもらいながら、自分でできるようになるといい。
- 自分のやり方で試せるのがいい。

◇ 分からない問題に出合ったらどうするか

- 自分で分かるところからやってみる。
- 教科書や問題をよく見る。
- 分かっている人に聞く。
- 友達や先生に聞く。

協働的な学び

◇ 異学年合同での振り返りについて思うこと

- みんなの振り返りが見えてどう思ったかが分かる。
- 次からはこうしてみようかなとヒントになる。
- いろいろな人の意見を聞ける。
- 相手の学年のすることも分かっている。
- 他の学年の勉強の意見が聞けておもしろい。

◇ 単元内自由進度学習について思うこと

- 迷ったときに4年生と一緒に考えてくれた。
- 3年生と一緒につくっていくことができて楽しい。
- 友情が深まる。
- 協力してできるのがいい。

複式学級での学び

◇ こんな複式の授業がいいな

- 先生がいなくてもみんなで作れる授業
- ガイドの言葉を理解して、自分たちだけで進められる授業
- みんなで協力して分かるようになる授業
- 止まることのない、すらすらと進む授業

○ 職員の実態

◇ 子供一人一人に考えさせたり、自由に選択できたりする学習活動が増えましたか?.....「はい」100%

- 単元のねらいから外れずに、子供たちで考えた学習ができるよう心掛けている。
(学習ツールの選択, 習熟プリント)
- 学習指導に限らず, 教育活動全般において子供に選択・決定させる場が増えた。
(運動会の競技内のある部分で体のどこを使うかの選択, 育苗の種類を選択, 掃除道具の選択など)

◇ 実践を通じてどんな意識の変化が見られましたか?

- 子供たちの姿をイメージしながら日々, 準備をするようになった。
- 子供たちに選ばせるための選択肢を用意するようになった。
- できるだけ選択する機会を設けるようにし, 選択する枠の自由度や制限を意識している。

※ 宇宿小学校として, これまで深めてきた複式学級における学習指導に加えて, 子供たちが自由に選択できる学習活動を増やすことで, 授業により主体的に取り組むようになった。さらに, 国語科の授業のつくり方が一般化され, どの領域においても「個別最適な学び」, 「協働的な学び」の在り方が具現化されてきたといえる。

(2) 成果と課題

【成果】

- 子供たちの実態から, 自分で選んだり友達と協働したりする場を工夫することで, 子供がより主体的な学びにつながることを実感することができた。
- これまでの研究をもとに, 複式学級のよさを生かした授業づくりに取り組むことができた。

【課題】

- 「自分の問い」を中心に置いた複式授業のモデルや, 「単元内自由進度学習」の進め方について, さらに理解を深めていきたい。
- 学習内容に応じた振り返りについて今後も研究していく必要がある。

◇研究同人◇

校長	前里	いずみ	教頭	吉田	真也		
教諭	上村	修		田代	真美		新保 恵
	玉泉	眞和		葛迫	幸生	講師	中村 美里
養護教諭	福田	和代	事務職員	秋丸	幸賜	一般事務補助	里 秀美

◇旧研究同人◇

校長	岩戸	修二	一般事務補助	原田	茂子	特別支援 教育支援員	山下 美紀
----	----	----	--------	----	----	---------------	-------